



第Ⅴ章

緑化重点地区

1. 緑化重点地区とは
2. 緑化重点地区の計画
 - 2－1 永源山公園周辺地区
 - 2－2 中心市街地周辺地区
 - 2－3 周南緑地周辺地区

第Ⅴ章では、
周南市の中でも特に緑化を推進すべき地区を緑化重点地区と設定し、
各地区の課題と重点的に進める緑化の方針を示しています。

第Ⅴ章 緑化重点地区

1. 緑化重点地区とは

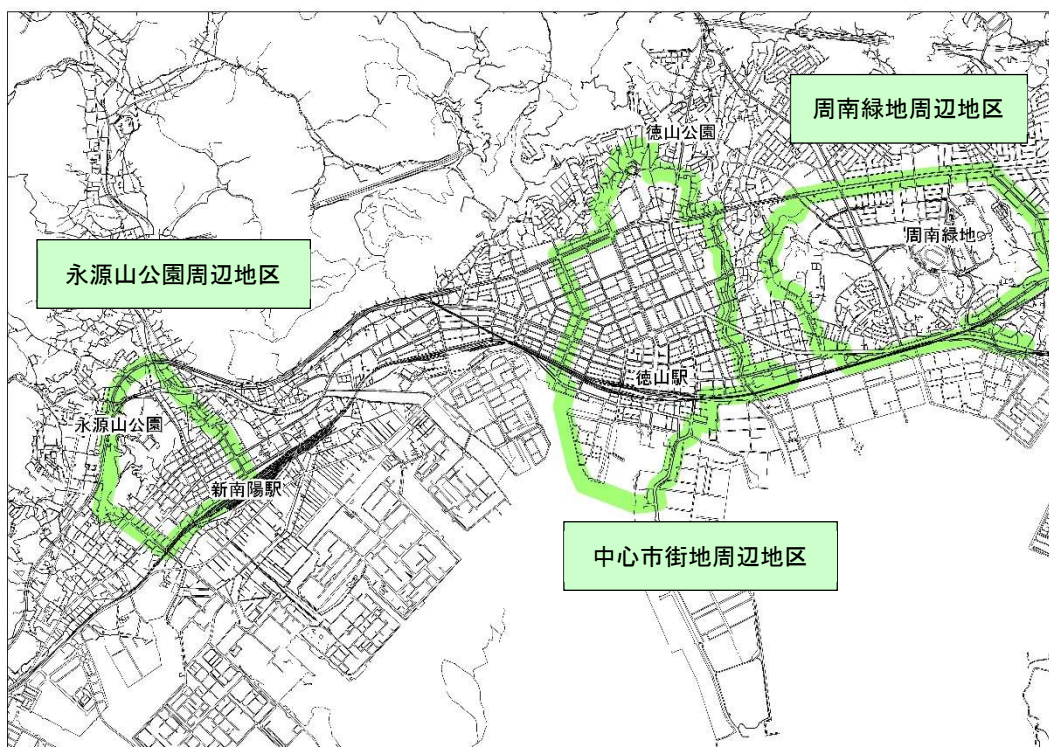
緑化重点地区とは、都市緑地法第4条において、「重点的に緑化の推進に配慮を加えるべき地区」として規定されており、緑の基本計画が目指す緑の将来像を目に見える形でモデル的に具体化するものです。

緑化事業を展開することで、市民の緑化意識の高揚を促すとともに、緑化重点地区自体が都市の骨格的な緑を構成する一部となります。

緑化重点地区は、まちのシンボルとなる地区、都市環境・景観の形成において特に重要な地区、現況においてまとまった緑が少ない地区、都市防災において緑の確保が必要な地区、地域コミュニティといった観点から一体的に整備する必要がある地区等が考えられます。

本計画においては、これまでの緑化施策や都市計画事業の進捗を踏まえつつ、まちの個性を特徴づける地区、ハード・ソフト事業を含めモデル的な緑化が行える地区、市民とともに緑をいかしたうのおいのあるまちづくりの拠点となる地区として、次の3つの地区を緑化重点地区として設定します。

- (1) 永源山公園周辺地区
- (2) 中心市街地周辺地区
- (3) 周南緑地周辺地区

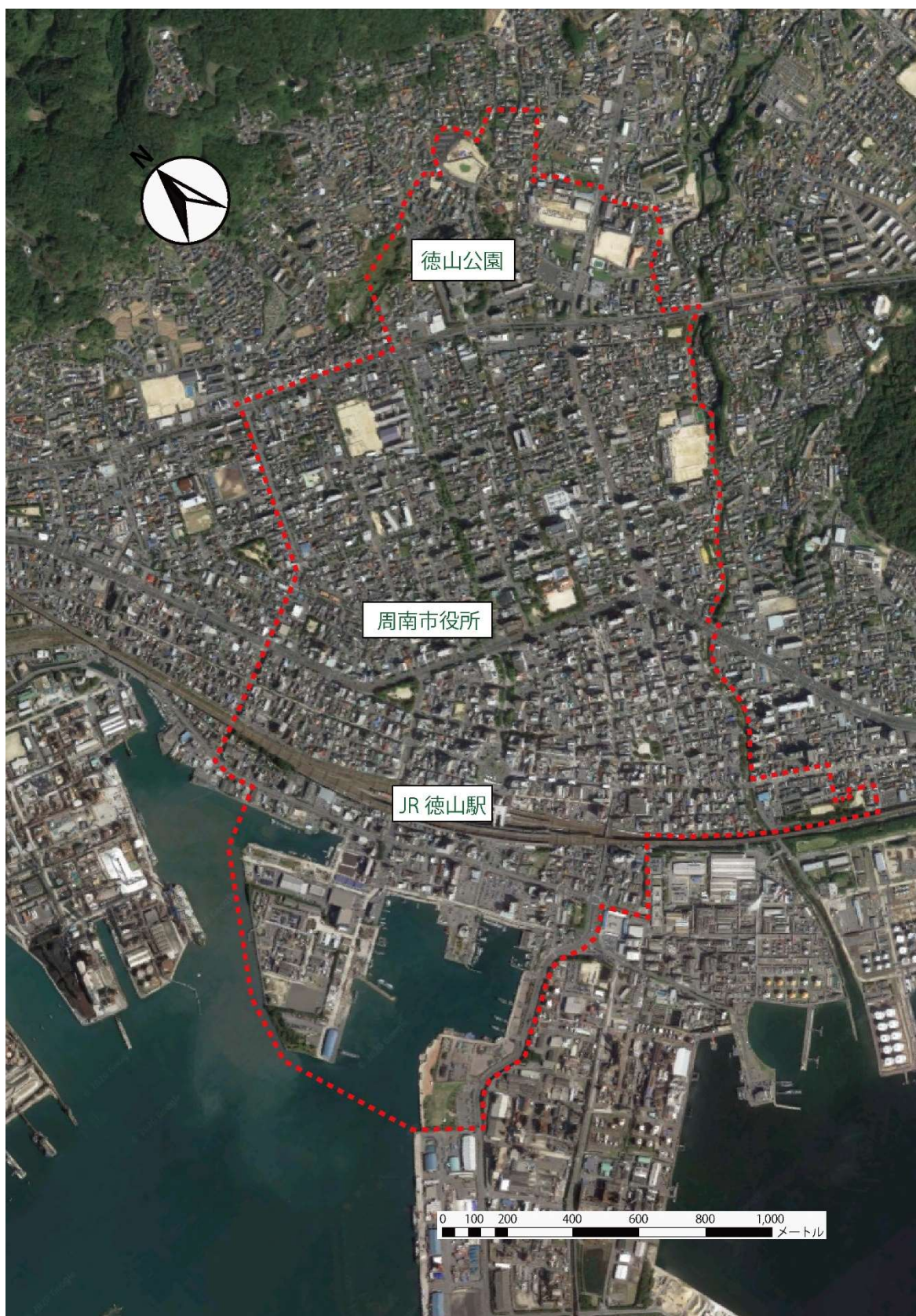


図Ⅴ-1 緑化重点地区の設定



【永源山公園周辺地区】

※Google マップより



※Google マップより

【中心市街地周辺地区】



【周南緑地周辺地区】

※Google マップより

2. 緑化重点地区の計画

2-1 永源山公園周辺地区

永源山公園周辺地区は、J R新南陽駅の北側に位置しており、周南市を代表する自然豊かな公園である永源山公園が存在します。また、商業・業務施設、公共公益施設が集積しており、多くの人々が来訪・交流している地区です。しかし、古くから市街地を形成している区域は都市基盤整備の遅れが目立つところもあることから、緑化の推進を図る意義は大きく、既存のまちなみをいかしつつ、都市基盤施設の整備とあわせた積極的な緑化により快適な市街地の形成が期待される地区です。

(1) 地区の課題

- ・永源山公園の効果的・効率的な整備・維持管理・運営・利活用
- ・公共施設の緑化推進
- ・地区内の既設公園の適切な維持管理・活用
- ・J R新南陽駅を起点とした、地区内の一体性・回遊性の確保
- ・永源山公園の地域防災拠点としての機能の充実

(2) 地区緑化の基本方針

永源山公園周辺地区は、多くの人々が来訪・交流する地区として、緑化の推進を図るとともに、都市基盤施設の整備とあわせた緑化を促進します。

永源山公園は、市街地西部の核となる総合公園であり、市民の憩いの場として多様なレクリエーション機能の充実と、緑の保全を図るとともに、都市防災機能の充実に努めます。



“ゆめ風車のライトアップ”



“ゆめ風車のチューリップ”



“幼児広場”

【永源山公園】

【都市の骨格となる緑の保全】

- 市街地の中において緑豊かな自然環境を保持している永源山公園の樹林地について、適切な維持管理による保全に努めます。

【自然環境との共生に配慮した緑の保全、育成】

- 地区内を流れる神代川について、ビオトープに配慮した多自然型護岸の保全を誘導し、親水性の向上を図ります。



【神代川】

【利用者の多様なニーズに対応した緑とオープンスペースづくり】

- 永源山公園は、魅力アップや多様なニーズへの対応のため、公民連携による効果的・効率的な整備、維持管理、運営、利活用を推進します。
- 地区内の既設公園はもとより、歩道、公共施設、交通機関等について、ユニバーサルデザインによる整備・リニューアルを推進し、地区内を歩いて回遊できる道路の整備を図ります。

【身近なオープンスペースの確保】

- 地区内の既設の公園・ポケットパーク等については、地域住民との協働による維持管理と活用を図ります。また、J R新南陽駅と永源山公園を結ぶシンボリックな道路空間をいかしたポケットパークの配置に努めます。



【ポケットパーク】

【緑によるうるおいのあるまちなみの創出】

- 道路緑化やコミュニティ道路の充実により、うるおいのあるまちなみを醸し出す歩行者空間を形成し、地区内の緑のネットワークを創出します。

【安心・安全に暮らせる緑の創出】

- 永源山公園は、地域防災拠点として、防災機能の充実に努めます。

【地域の個性や資源の保全・活用】

- J R新南陽駅の駅前ロータリーを花と緑で彩り、地区の玄関口・顔となる魅力を創出します。また、駅を起点としてシンボリックな通りの形成を進めます。



【新南陽停車場線・ゆめ風車通り】

【公民連携による緑のまちづくりの推進】

- 緑化に対する意識の啓発を図り、周辺の事業者、地域住民、商店街等の協力により、うるおいと華やかさのある緑化の推進、また、街路樹や花壇の適切な維持管理を図ります。

【緑を守り、増やすための人づくり】

- 永源山公園を核として、「つつじ祭り」や「ゆめ風車まつり」といったイベントをいかし、緑をより身近に感じ、ふれあう機会を増やすことで、市民の緑化意識の高揚を図ります。



【つつじ祭り 5月】



【ゆめ風車まつり 10月】



【サンフェスタ新南陽】



図Ⅴ-2 永源山公園周辺地区

2-2 中心市街地周辺地区

中心市街地周辺地区は、徳山港からＪＲ徳山駅、市役所周辺、徳山公園に至る都心軸とその周辺部であり、御幸通、岐山通においては、駅前広場から大きく育った緑豊かな街路樹がつながり、周南市のシンボルとなる緑化が行われています。また、徳山港線の桜並木は、うるおいのある歩行者空間を演出し、美術博物館、文化会館、動物園の存在をより引き立てています。

地区東部においては、東川沿いに東川緑地公園が整備され、市街地では貴重な親水空間もある地区となっています。

(1) 地区の課題

- ・駅周辺整備事業等の市街地整備と連動した緑化推進
- ・緑豊かな街路樹の維持管理・整備・充実
- ・地区内の既設公園の適切な維持管理・活用
- ・都心軸や文化施設等の連携を意識した地区内の一体性・回遊性の確保
- ・徳山公園の広域避難地としての機能の充実
- ・公園・街路樹の効果的・効率的な整備・維持管理・運営・利活用

(2) 地区緑化方針

中心市街地周辺地区は、周南市のシンボルとなる地区であり、駅周辺整備事業等の市街地整備と連動した緑化や、地区内における一体性・回遊性を意識した緑化を図るとともに、市民の参加・協力による緑化を促進します。

徳山公園は、文化会館や動物園を有する総合公園として、新たな魅力を創出し、市民が気軽に集える憩いの場として多様なレクリエーション機能の充実と緑の保全を図るとともに、都市防災機能の充実に努めます。



【周南市役所】



【徳山動物園】



【周南市文化会館】



【周南市美術博物館】

【自然環境との共生に配慮した緑の保全、育成】

- 市街地における生物多様性の確保のため、緑豊かな街路樹や公園の樹木、東川の水辺を中心に、ビオトープネットワークに配慮した自然豊かな川づくりを進めます。

【利用者の多様なニーズに対応した緑とオープンスペースづくり】

- 地区内の既設公園はもとより、歩道、公共施設、交通機関等については、移動等バリアフリー基本構想に基づき、ユニバーサルデザインによる整備を図り、地区内を歩いて回遊できる空間と緑化の一体的な整備を図ります。
- 徳山駅を中心に、駅前広場や公園、街路樹等の公共施設について、市の玄関口にふさわしい、市民ニーズに合致した管理運営や利活用のため、公民連携手法の導入を検討します。

【身近なオープンスペースの確保】

- 周南市の港湾部に位置する晴海緑地公園は、中心市街地に近接し、近年では工場夜景の撮影スポットとして多くの来訪者が訪れる空間となる等、今後も市民が憩ううるおいのある水辺空間として充実と活用に努めます。
- 市街地を流れる東川は、貴重な親水空間として、人々に愛され、親しまれる川づくりをめざし、適切な維持管理に努めます。また、人々が日常的に憩い、散策できる緑の回廊として、東川緑地公園の充実に努めます。

【緑によるうるおいのあるまちなみの創出】

- 緑豊かに大きく育った街路樹や、道路の植栽帯、既設の公園について、これらの連続性・一体性に配慮した保全・管理を図ります。また、道路緑化の充実を図ることにより、うるおいのある歩行者空間を形成し、地区内の緑のネットワークを創出します。
- J R 徳山駅や市役所、文化会館・美術博物館、動物園等、多くの人々が来訪・交流する施設を中心に、周南市のシンボルを印象づける緑化を維持します。
- 商店街におけるにぎわいの創出やうるおいのある都市環境の形成に向けて、商業・業務施設の緑化を誘導します。また、スペースの状況に応じて、屋上緑化・壁面緑化の導入を働きかけます。
- 今後、J R 徳山駅前広場や御幸通、岐山通、徳山港線等について景観重要公共施設として位置づけることを検討し、街路樹等の適切な維持管理を行うことで、景観に配慮したうるおいのある緑の空間の保全を図ります。



【青空公園】



【桜のトンネル（徳山港線）】

【安心・安全に暮らせる緑の創出】

- 徳山公園を広域避難地として位置づけ、防災機能の充実に努めます。

【緑とオープンスペースをいかした市街地のイメージアップ】

- 中心市街地活性化事業と連動した地区内の緑化推進を進め、都市の顔としての魅力の向上、緑のイメージアップを図り、にぎわいの創出に努めます。
- 緑豊かな街路樹がある岐山通・御幸通を含めた都心軸をシンボルロードとして位置づけ、港から駅、中心市街地が一体となった特色ある景観づくりを進めます。

【地域の個性や資源の保全・活用】

- 市民・文化拠点の重要な観光施設であり、令和2(2020)年3月に開園60周年を迎えた徳山動物園は、種の保存や環境学習などの動物園本来の使命に加え、まちなか動物園として中心市街地の活性化や賑わいの創出等により交流人口の拡大を目指し、まちづくりの核となる魅力的な整備を進めます。また、来園者ニーズに応じたサービスの向上を目指し、公民連携を視野に入れた持続可能な運営・管理の仕組みづくりを検討します。

【公民連携による緑のまちづくりの推進】

- 岐山通・御幸通をはじめとする街路樹や、公園等については、市民と行政の協働による維持管理の仕組みづくりを検討します。

【緑を守り、増やすための人づくり】

- 徳山公園等の施設を中心とする各種イベントと連携しつつ、環境学習等を行い、市民の緑化意識の高揚を図ります。



“キッズキーパー獣医体験”

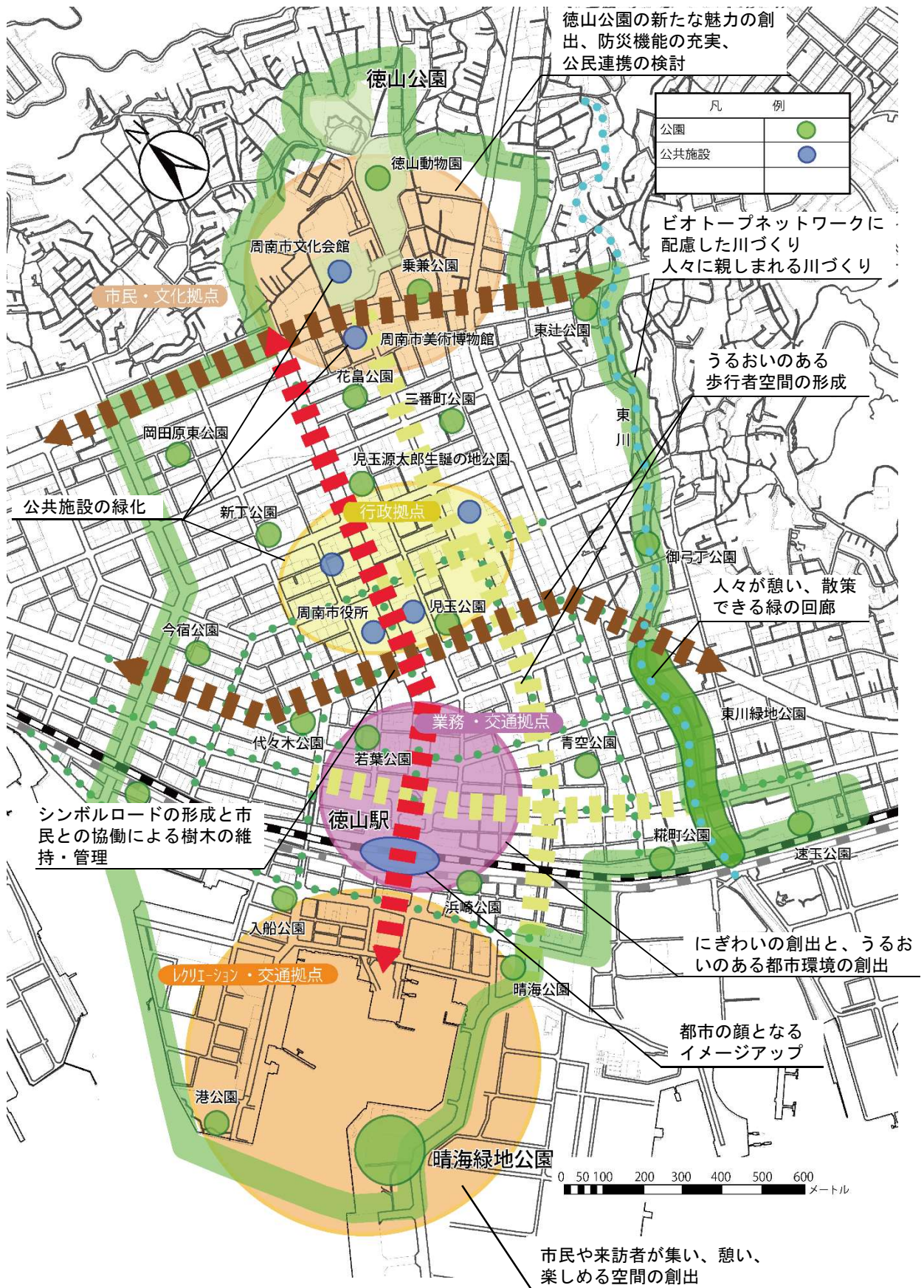


“小動物ふれあい体験”



“徳山動物園リニューアルイメージ”

【徳山公園（徳山動物園）】



図V-3 中心市街地周辺地区

2-3 周南緑地周辺地区

周南緑地周辺地区は、周南市の公園の中核である周南緑地とその周辺部であり、周南緑地は東緑地、中央緑地、西緑地、遠石緑地、横浜緑地の5緑地で構成されています。

東・中央緑地は、周南市のスポーツ・レクリエーション拠点として、総合スポーツセンター、野球場、庭球場等の多種のスポーツ施設が多くの人々に利用されていますが、老朽化が進行しており、大規模修繕や改修等が必要です。また、災害時における広域防災拠点としての機能充実も重要です。

西緑地は、樹林地が大部分を占めており、市街地における貴重な自然環境を保持しています。そして、この自然環境を活かして万葉の森や菖蒲園等が整備され、市民が自然とふれあい、親しめる空間が創出されています。

(1) 地区の課題

- ・ 東・中央緑地の老朽化したスポーツ施設の大規模修繕・再整備
- ・ ユニバーサルデザインに配慮した施設整備と機能の充実
- ・ 子どもからお年寄りまで利用できる、多様なレクリエーションニーズへの対応
- ・ 西緑地における貴重な自然環境の保全と活用
- ・ 周南緑地の広域防災拠点としての機能の充実
- ・ 周辺からのアクセスルートの向上
- ・ 周南緑地の効果的・効率的な整備・維持管理・運営・利活用

(2) 地区緑化方針

周南緑地は市街地における貴重な緑であり、市民参画の下、その自然環境の保全に努めるとともに、自然とふれあえる環境学習の場の拠点として、広く活用を図ります。また、周南市のスポーツ・レクリエーション拠点として、施設の充実に努めます。

周南緑地と隣接する周陽公園とともに、災害時等における広域防災拠点としての整備・充実に努めます。



【東緑地の総合スポーツセンターとテニスコート】



【中央緑地の周南フレンドパーク】



【中央緑地と東緑地を結ぶ緑の架け橋】

【自然環境との共生に配慮した緑の保全、育成】

- 西緑地については、生物多様性確保のため、万葉の森をはじめとする樹林地の保全、維持管理と併せた利活用を図るとともに、市街地内における貴重なビオトープをいかして、四季を通じて多くの人々が自然とふれあい、癒され、学び、憩い、散策できる空間の創出に努めます。



“茶室”



“大賀ハス”



“リュウキュウチシャノキ”



“徳山桜”

【西緑地】

絶滅危惧種「タシロラン」の発見

平成 27(2015)年 7 月、西緑地において、山口県のレッドデータブックに絶滅危惧ⅠA類として分類されている希少な植物「タシロラン」が発見されました。

発見者の田代善太郎氏にちなんで「タシロラン」と名付けられたこの植物は、多年生菌根性ランで、茎は高さ 5～40cm 程になり、7 月初旬に白黄色の花が咲きます。開花期間は一週間程度と短く、葉緑素を持たず、光合成ができない腐生植物で、腐敗した枯葉などに育つ菌類と共生することで栄養素を得ています。

生育地として確認されている地域は、国内では本州（三浦半島、山口県）、九州、沖縄で、山口県内では上関町、田布施町でのみ確認されていました。

この貴重な植物の保護にあたって、市では看板を設置し、利用者に周知を図るとともに、貴重種の観察機会を持っていただくため、タシロランが開花した際には、市ホームページなどでお知らせしています。



【タシロラン】

【利用者の多様なニーズに対応した緑とオープンスペースづくり】

- 東・中央緑地は公民連携手法による、老朽化したスポーツ施設の大規模修繕・改修を実施します。
- 施設の改修や整備にあたっては、ユニバーサルデザインへの配慮や、駐車場不足の解消等、時代のニーズに対応した新たな魅力づくりを含め、多くの人々が憩い、楽しめるよう来園者の満足度の向上を図ります。
- 遠石緑地、横浜緑地については、人々にうるおいを与える快適な市街地環境・景観を形成し、住工分離に機能する重要な緑地として、今後とも適切な維持管理に努めます。
- 周南緑道は、ユニバーサルデザインや避難路としての防災機能に配慮した整備をしており、今後とも機能に応じた維持管理に努めます。

【緑によるうるおいのあるまちなみの創出】

- 周南緑地周辺の住宅地においては、緑地協定の締結等による、うるおいのある住環境の質を高める緑化を誘導します。

【安心・安全に暮らせる緑の創出】

- 東・中央緑地と中央緑地に隣接する周陽公園を、一体的な広域防災拠点として有機的につながりをもたせ、自衛隊、消防隊等の大規模な救援部隊の駐留、救援物資の受け入れ、配送拠点といった防災機能の充実に努めます。機能の充実にあたっては、周辺の消防署、病院等との連携強化に努めます。

【地域の個性や資源の保全・活用】

- 遠石八幡宮は、地域の歴史・文化的資源のシンボルであり、うるおいのある都市環境の創出や、市街地景観におけるランドマークとなるため、境内地の樹林地の保全を誘導します。

【公民連携による緑のまちづくりの推進】

- 周南緑地は、様々な市民活動が行われる場でもあるため、市民と行政の協働による緑のまちづくりや市民が参画する都市緑化の仕組みづくりの拠点として位置づけていきます。
- 西緑地を核として活動している公園愛護会について、今後も積極的に支援、育成していきます。

【緑を守り、増やすための人づくり】

- 西緑地の樹木見本林や万葉の森を活用し、自然観察会等で多くの市民が自然とふれあい、学べる環境づくりを進めます。



【西緑地の樹木観察会】



【西緑地 万葉の森】



【東緑地と西緑地を結ぶ周南緑道】



【住工を分離する遠石緑地と工場緑地】

京都大学フィールド科学教育研究センターとの連携協定

平成 24(2012)年 9 月 27 日、地域創造・地域振興及び教育・研究の発展を目的に京都大学フィールド科学教育研究センターと連携協定を締結しました。

一般市民や中学生を対象とした講座を西緑地及び京都大学徳山試験地等で開催し、自然環境に関する学習を推進する人材育成を行います。



緑のオアシス 西緑地の歴史

この緑地の中心は京都大学演習林で、最高 65m から 18m のひだの多い山林地である。京都大学演習林は、正式には「京都大学農学部附属演習林徳山試験地」と名称され、昭和 5 (1930) 年に大迫田において「徳山砂防演習地」(36 万 m^2) を開設したのがその始まりであった。海軍燃料廠の地下貯油タンク建設のため昭和 17 (1942) 年に東山へ移転し、「徳山試験地」と改めて新発足した。昭和 39 (1964) 年、周南団地建設用地問題に関連して緑地公園に転換し、演習林代替地は、新たに栄谷の東部にある鉢窪の市有林(天然林約 21 万 m^2 、人工林約 20 万 m^2) が大学に提供され現在にいたっている。

西緑地はこのような長期間、大学演習林であった丘陵地が主体となっているため、国外・国内の各地から移植された貴重な樹木が成長し、全体として自然公園的な緑地である。周南緑地としての造成に伴って、山林内をめぐるハイキングコースの整備、東西 2 ヶ所の大庭園の築造、樹木の植栽、キャンプ広場・展望台・休憩所・駐車場などに約 1 億 2,000 万円をかけて整備された。西緑地の特に西側一帯の山林は、旧京都大学演習林としての樹木見本園であり、遊歩道の周辺には 900 種類にのぼる国内・国外産の樹木が成長し、「タカサゴイヌザクラ」のような貴重な樹木もあり、植物園と自然公園を兼ねた性格の貴重な山林緑地である。また緑地の西南端の低地には大庭園が築造されているが、庭内の池の一部には「大賀ハス」がある。これは故大賀一郎博士が千葉県検見川の泥炭層から古代に生育していたハスの種子を発見し、郷里の岡山市で栽培して開花に成功したものである。昭和 51 (1976) 年 5 月、徳山市はその分譲を受けてこの緑地で栽培し、夏季になると桃色の花を咲かせている。



【タカサゴイヌザクラ】

この池に隣接して「万葉の森」の庭園がある。古典文化のいぶきがただよふこの森は、はじめ徳山文化協会で企画され、これをうけて徳山ロータリークラブが、昭和 50 (1975) 年に国際ロータリー第 369 地区年次大会を徳山市で開催した記念として築造し、昭和 52 (1977) 年 5 月に市に寄贈したものである。1,400 m^2 の庭園には、園路と小川と庭石がたくみに配置され、その周辺一帯に約 130 種類の万葉集の歌に登場する植物が植えられ、それぞれに歌と作者を記した立て札が配置されている。

※徳山市史(下) 抜粋

西緑地は、現在 4 つの公園愛護会を中心に市民共有のみどりの財産として、次の時代へ引き継げるよう市民協働で保全や活用に取り組んでいます。



【西緑地で活動する公園愛護会】
